
無題

奏

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題

【Nコード】

N 8 7 9 6 M

【作者名】

奏

【あらすじ】

忘れられない人。
忘れられない想い。
忘れたくない恋。

prologue

私は、時々

何もかも捨てて

彼の横で暮らす自分を想像する。

今の暮らしを全て捨てる。

住み慣れた家も使い慣れた家具も。

そして、古いドラマの様に、

身、ひとつで、彼の住む土地へと、行くのだ。

・・・だけど、想像をしている内に
捨てる事の出来ない「現実」に追いやられる様に
想像の中の私は姿を消してしまう。

私は、今日もこの街で暮らす。

住み慣れた家と使い慣れた家具に囲まれながら。

彼とは別の人への食事を用意して、
彼とは別の人へ、「おかえりなさい。」と、笑いかける。

千笑はその日、一人でバーのカウンターに居た。

カウンターのテーブルの上に両手を重ねて、
その両手の上に顎を乗せ、
自分の前に置かれた薄い水色のカクテルを
ただ、ただ、眺めていた。

カクテルを眺める事に飽きると、煙草に火をつけ、
薄暗い店内で昇りゆく、煙を眺めた。

「ちいちゃん、元気だしなつてえ。」

と、見兼ねた様に声をかけるのはこの店で働いているバーテンダー
の谷崎翔太だ。

「無理。だって翔ちゃんは、モテるから、ちいの失恋の悲しさなん

てわかんないんだよ。」

そう言つて千笑は、煙草の煙を吐いた後、ふて腐れる様に、口を尖らせた。

「おれ、ちいちゃんが思つてる程、モテないつて。失恋の悲しみは、俺だつてよくわかりますよ」

むしろ、ちいちゃんに俺が癒してもらいたいぐらい（笑）」

そう言いながら、谷崎はグラスを拭く手を止め、泣き真似をして見せたが、

千笑はチラッと見ただけで、また煙草の煙を眺める作業に戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8796m/>

無題

2010年10月28日03時40分発行